

2 研究の実際

(4) 校内研究の推進・充実のための方策の実施

実践① 全員の意見を重視し、実践と改善を繰り返すことを目指した授業研究会〔A小学校における実践〕

A小学校は、前年度までの研究に、今年度新たな研究内容を加えたので、研究内容を共通理解することが必要だと考えました。そこで、第1回授業研究会での協議内容を基に教師全員で授業の視点を設定したり、教師全員に採ったアンケートを参考に授業研究会の進め方を改善したりしました。このような手立てにより、教師全員の意見を校内研究の取組に反映させ、実践と改善を繰り返すことを目指しました。

校内研究の年間計画

月	PDCAの段階	各段階の取組
4月	P 校内研究のスタート	<p>○研究主題と内容及び年間計画の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の主題を確認するとともに、内容について共通理解を図る。 ・校内研究会を20回予定し、そのうちの6回は、研究授業及び授業研究会を実施する。また、講師招聘を2回行う。
5月 ↓ 11月	D 実践	<p>○研究授業及び授業研究会に向けた取組(p)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の場におけるワークショップ型の選定を行い、授業研究会の進め方について説明資料を準備する。 <p>○研究授業(d)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究授業において、授業の視点を定めるための研究主任による提案授業を実施する。 ・2回目以降は、授業の視点に基づいた研究授業を実施する。 <p>○授業研究会(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の視点に基づいた協議を、ワークショップ型で行う。 ・教師の意見を基に、協議方法などの改善を図るための事後アンケートを行う。 <p>○日々の教育実践(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議した内容を基に、5W1Hを用いた実践計画に沿った実践を行う。 <p style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px;">※p d c aを繰り返す。</p>
12月 ↓ 2月	C 評価	<p>○今年度の校内研究の取組の振り返りと改善点についての協議</p> <p>○まとめの作成</p>
3月	A 改善	○次年度に向けた校内研究推進計画の作成

意識調査

校内研究に関する意識調査の第1回を実践前の7月に、第2回を実践後の10月に行いました。

第1回意識調査の中の質問項目I-1-③「日々の教育実践に校内研究の取組を生かしていますか」、I-2-③「自分の思いや考えを自主的に述べていますか」ということについては、どちらの質問項目も8.3%の教師が「どちらかといえばそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答していることを課題として捉えました。

活用したワークショップ型とそのねらい

第1回意識調査で挙げた課題を解決するために、以下のワークショップ型を選定しました。また、指導案拡大法とワールドカフェは、組み合わせて活用しました。

○指導案拡大法

協議内容が焦点化するように、授業の気付きを記入した付箋を拡大指導案に貼って確認しながら、低学年担当、中学年担当、高学年担当の3グループに分かれ協議しました。拡大指導案は各グループに1枚ずつ準備しました。

○ワールドカフェ

教師が、自分の思いや考えを自主的に述べるができるように、授業研究会でのグループ協議においてワールドカフェを用いました。

○5W1H

日々の教育実践に校内研究の取組を生かすために、協議で出された内容を基に5W1Hを用いて実践計画を立てました。

実践に当たって工夫した点

○第1回授業研究会において、研究主任が提案授業をした後に、教師全員で今年度の授業の視点を定めるための協議を行いました。そこで定められた授業の視点に沿って2回目以降の研究授業と授業研究会を行うことで、協議内容の焦点化を図りました。また、これまでの授業の経緯や児童の記述が確認できるように、研究授業で用いた板書や掲示資料のある教室で行いました。

授業の視点

- ① 「導入」における学習活動は、児童の興味・関心を高めるものであったか。
- ② 児童に見通しをもたせる学習活動になっていたか。
- ③ 目的意識のある充実した話し合い活動が仕組まれていたか。

○研究主任が、ファシリテーションにおける【事前の準備】*に基づいて授業研究会を運営することで、協議内容が日々の教育実践の改善につながるような研究会を目指しました。

*ファシリテーションにおける【事前の準備】については、「2 研究の実践 (3) 校内研究の推進・充実のための方策 ④ 校内研究の進め方・生かし方 イ 授業研究会等の進め方ーワークショップ型の活用例と手法の紹介ーファシリテーション」を参照

○授業研究会のおわりに研究会の運営上の気付きを教師全員がアンケートに記入し、集まった意見を基に授業研究会の改善を図りました。

事前の取組

「本研究で提案する事前の取組例」に沿って行いました。[「本研究で提案する事前の取組例」はこちら](#)

授業研究会の実際

～ 第5回授業研究会の取組 ～

活動	分	活動の具体
1 開会		・説明資料を用いて、授業研究会の進行について確認した。 研究主任「今年度の3つの視点を基に協議を進めていきます。進め方については、前回の先生方のアンケートの結果を基に次のように考えました。」
2 授業研究会の進行確認		
3 アイスブレイク(歌)		
4 授業者の自評	5	
5 質疑応答	5	

授業研究会の進行における説明資料

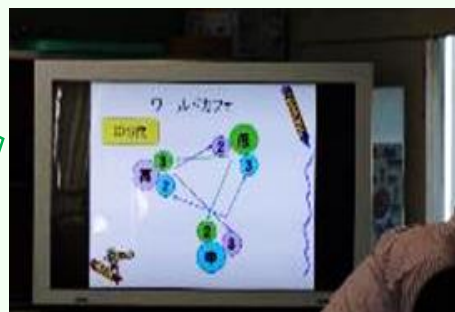
- ・グループ協議を始める前に留意点について確認した。

グループ協議の留意点

- ① 授業研究会のまとめの時間を確保するため、時間配分を守る。
- ② 発言の順番を工夫し、全員で意見を出し合う。

- ・説明資料を用いて、ワールド
カフェの移動について確認し
た。

研究主任「授業研究会のま
とめの時間を確保するた
め、グループ協議の時間や
シェアする時間を守ってく
ださい。」



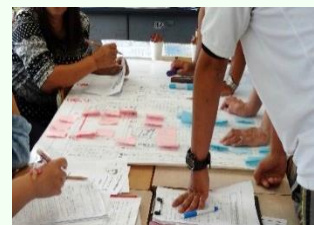
ワールドカフェの移動について
の説明資料

ラウンド① (20分) ※ワールドカフェにおいては、1回のグループ協議を「ラウンド」と呼びます。

- ・低学年担当(6人)、中学年担当(6人)、高学年担当(6人)の3グループに分かれ、各グループに拡大指導案を準備した。
- ・拡大指導案を用いて、授業の視点に沿った手立ての成果と課題を確認した。
- ・確認した成果と課題を基に改善を図った。

実践のポイント

少人数だと疑問に思っていることが言いやすくなります。



ラウンド①の様子

ラウンド② (10分)

- ・各グループともホストの2人を残し、あとの4人は2人組で他の2つのグループに移動した。
- ・6人そろったら、ホストは、自分たちのグループで話し合ったことを説明した。
- ・拡大指導案を基に、ラウンド①で話題になったことに基づいた意見を述べ、グループで協議を進めていった。



実践のポイント

ワールドカフェを用いると、グループのメンバーが変わるので、1つのグループでは出なかった意見を聞くことができます。

7 実践の確認

5

ラウンド③ (10分)

- ・ホストの2人は移動せず、あとの4人は他のグループに移動し、ラウンド②で話題になったことを基に新たな意見を加え、グループ協議を進めていった。

実践のポイント

今回のワールドカフェを用いた研究会は4回目です。ねらいどおりの協議内容にするために、改善を行いながら用いました。



ラウンド③の様子

最終ラウンド (10分)

- ・最初のグループに戻り、移動したグループで出た意見を共有し、協議を深めた。
- ・グループ別に出された意見を発表した。

研究主任「今日の協議で確認したことを基に、前回立てた実践計画を各自で見直してください。」



実践計画の見直し

実践計画		氏名	依紗
研究会で得たこと	活動が活性化できたのは、 具体的に「何を」「いつ」「どこ」で実施するかを iPadを7-11にて撮影したものを参考に活用する。		
Who?	子どもたちと先生たち。 先生の		
What?	活動の めあてを、今年度の週末の夜中10時～1食分		
When?	課題提示の段階で、 コミュニケーションの最終段階 活動の開始		
Where?	外国語活動の時間 1-1 教室		
Why?	みんなのやる気を下げるため、 より具体的に担当者に伝えたい。 （この辺り）		
How?	X-2を視せ、行を目標とする。目標に対して わかるように示してから発表させる。 （この辺り）		

前回(第4回)の研究会で立てた実践計画に今回修正を加えたもの

8 事後アンケート

5

・授業研究会の進め方についてのアンケートを教師全員に行い、その結果やアンケートに記された意見を基に改善を図った。

研究主任「ワールドカフェを用いて意見を出し合う協議についての感想を書いてください。」



事後アンケートの記入

10月8日(水) 校内研究会 アンケート

*本日の研究会の振り返りをお願いします。 () 学年部

1. 研究授業の時の観察・記録は、いかがでしたか。
 やりやすかった。
 やりにくかった。
 どちらともいえない。

2. 研究会での進め方についてのご意見をお聞かせください。
 ①ワールドカフェでの各学年グループの内容の進め方について
 やりやすかった。
 やりにくかった。
 どちらともいえない。

②「話し合い活動の型」検討について
 充実していた。
 あまり意味はなかった。
 どちらともいえない。

3. 実践計画の実施状況は、いかがでしたか。
 やりやすかった。
 やりにくかった。
 どちらともいえない。

4. 明日の授業から生かすことができる研究会でしたか。
 そう思う。
 そう思えない。
 どちらともいえない。

5. 授業者への感想をお願いします。

ご協力ありがとうございました。

事後アンケート用紙

9 閉会

事後の取組

授業研究会後に、教師全員が5W1Hを用いた実践計画の裏側に実践シートを貼り、次の研究会までの期間、実践計画に沿った実践を行い、記録しました。実践したのものについてはOKを記入しています。

実践記録…計画を実践したときは○をつけたり、必要に応じて次につながるメモをどっさりしてみませんか？

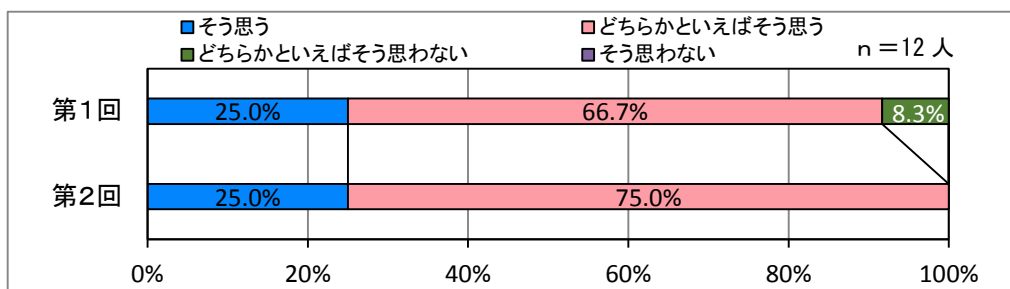
校時 9~10月	22 日 曜日	30 日 火曜日	1 日 水曜日	2 日 木曜日	3 日 金曜日
1					
2					
3			3年生 国工	6年生 外国語活動 iPad を使って コミュニケーション活動	
4		5年生 音楽	3年生 国工	4年生 国工の対決 (自分vs(対決) 画像見せ対決)	
5	5年生 外国語活動 原田 藤原のペア 147-10-1000	1年生 英語活動 昆虫画像を 使って	6年生 音楽	3年生 生活 「落合」 探検隊の記録	5年生 音楽 「ゆき」画像 をキョロロに
6	6年生 外国語活動 iPad を使って コミュニケーション活動 友達と世界旅行 シミュレーション→英語	2年生 英語活動 昆虫画像を 使って		自己紹介カードと 二つで帯に決まってる	

実践シートの例

実践を終えて

実践後の第2回意識調査の結果は、以下のようになりました。

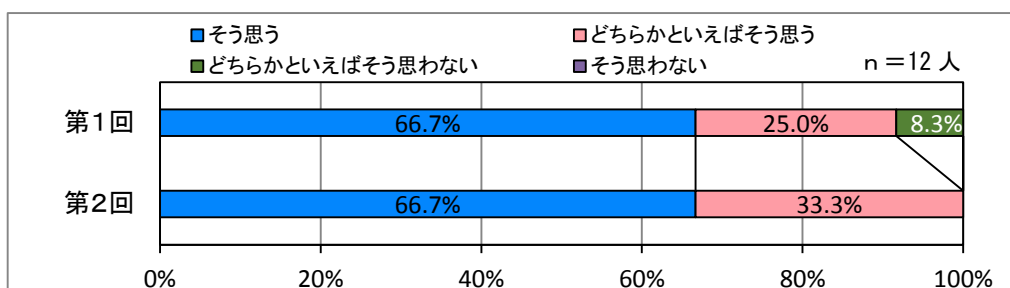
ア I-1-③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」について



I-1-③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 91.7%、第2回 100%となり、肯定的な回答が、8.3ポイント増加しました。日々の教育実践に生かした内容として具体的に記述されていた内容は、以下のとおりです。

- ・ 自分で目標などを立て、点検、振り返りをする。
- ・ 5W1Hの実践計画表を活用する。

イ I-2-③「自分の思いや考えを自主的に述べていますか」について



I-2-③「自分の思いや考えを自主的に述べていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 91.7%、第2回 100%となり、肯定的な回答が、8.3ポイント増加しました。自分の思いや考えを自主的に述べることに関連して記述されていた内容は、以下のとおりです。

- ・ 話しやすい雰囲気だった。
- ・ 少人数で意見が言いやすく活発に論議できた。

以上の結果から、協議で出された内容を基に、教師が自分で目標を立て、点検、振り返りをするなどの具体的な手立てを取り、日々の教育実践に積極的に生かそうとしていることがうかがえます。また、ワークショップ型の研究会を実施したことにより、話しやすい雰囲気となり、自主的に自分の思いや意見を述べるにつながったと思われます。今後は、授業研究会で立てた実践計画を有効に活用するために、その実践を教師同士で伝え合うような場を設定することが大切であると考えます。